

ケイ子の東奔西走日記

市町村調査(1/28 西和賀町、2/4 九戸村・軽米町)

同僚議員3名で西和賀町・九戸村・軽米町を訪問。小規模市町村への県の役割をテーマに意見交換。



デジタル化や人材育成の課題に県の積極的な関与や鳥獣被害対策など県の先導的な取り組みの必要性を共有し、3月議会で取り上げる予定です。

12/23 県民との意見交換会(久慈市)



「地域おこし協力隊」として3年の任期を終了し定住している方々と意見交換。地域の良さを掘り起こし SNS で発信。

持続的な仕事の確保、地域活動化に、行政・地域・協力隊が連携しあっていました。

12/17 農林水産委員会県内調査(奥州市、紫波町、矢巾町)

奥州市江刺梁川地区では「めん羊」を活用した地域振興、紫波町では「森林づくり県民税」の活用策の課題、矢巾町では「原木しいたけ」の生産状況について、意見交換。課題山積ですが、意欲的な皆さんの頑張りに農業県岩手として光も見た思いでした。



課題山積ですが、意欲的な皆さんの頑張りに農業県岩手として光も見た思いでした。

11/12 花巻大曲線小倉山4号トンネル安全祈願祭(西和賀沢内)

花巻と沢内をつなぐ「銀河なめとこライン」は、長期間の工事が続いています。やっと国の補助金が決まり、最後のトンネル1 km の掘削が始まりました。前後の道路を含めて2002年から2024年までの22年間の工事で約64億円の大事業。春の新緑、秋の紅葉のドライブも楽しみです。



10/31 江釣子学童のプレハブ棟解体式 & ハロウィーン

江釣子学童保育所は20年間にわたり神社の社務所とプレハブ棟で活動してきましたが、小学校敷地内に新施設が建設され移転も完了。プレハブ棟は解体することになり、ハロウィーンと合わせてサヨナラ会が行われました。学童設立時から関わってきたので、感慨もひとしおでした。



新しい施設は立派に完成しましたが、140人以上の児童に対して指導員の確保が課題です。

10/13 知事要望

会派「希望いわて」として、県内市町村からの要望と来年度予算やコロナ対策を達増知事に求めました。知事要望は3/3、8/5にも行っており、新型コロナ感染・医療対策、経済、教育など多岐にわたる要望書を提出しました。



8/23(日)いわて復興未来塾(山田町、大槌町)

山田町では復興まちづくりを視察。再建にける商店街の意欲を感じました。

活動報告会では、大槌高校復興研究会が防災絵本づくりと震災の伝承活動を発表。辛い体験でも学校が再開した時の喜びなども描かれ、じ〜んときました。子育てサロンを開設した助産師は、情緒不安定なママの居場所づくりを発表。素晴らしかったです。



静岡県からの応援職員は、工事と津波防災講座の開催など地域交流を発表。復興工事は全国からの応援職員に支えられ、感謝感謝です。たくさん問題もありながらも、確実に復興している様子を見ることができました。

8/20 農村整備推進議員クラブ調査(一関市)



一関遊水地では、自動操舵トラクターを導入しスマート農業を推進しており、若者の就農者が増加。

川崎町の門崎ファームでは、減農薬でメダカやホタルのいる水田、体験イベント、特別栽培米で高価格米を販売。ここでも若者が活躍していました。

平和で明るい社会を子どもたちへ・・・

岩手県議会議員 佐藤ケイ子



県議会レポート

No.10 2021年(令和3)3月

編集発行：岩手県議会議員 佐藤ケイ子
事務所：北上市青柳町1丁目5-39 TEL0197-72-7548 fax72-7549
自宅：北上市下江釣子16-154-3 (TEL&fax 0197-77-2126)
E-mail: keiko-ktkm@poppy.ocn.ne.jp ホームページ: http://www.sato2007.com/

ご意見・ご要望をお聞かせください。今後の政策づくりに生かしてまいります。

あいさつ



新型コロナウイルスの感染拡大から1年。昨年2月の「県政報告会&新春のつどい」は中止し、その後も会食自粛や3蜜回避で集会なども開けず、皆様には大変失礼しております。

県議会は、感染対策を講じながら会議や県内調査をしています。県外での研修会は参加できず、リモート講演会に参加の日々です。地域課題の意見交換の場として、年4回の政策懇談会は少人数で開催し、議会発言に反映していますが、会話・交流という大事な機会を持っていないことは悩ましいものです。

コロナの収束まで新しい生活様式を意識しながらお互いに頑張りましょう。

コロナ禍において



新型コロナウイルスの国内感染者は429,441人、死亡者7,746人(2/25現在)と深刻な状況。医療現場のひっ迫、飲食・観光・交通関係をはじめ様々な業種の経営問題、非正規労働者やひとり親世帯など弱い者へのしわ寄せが表面化し、悲鳴が出ています。菅首相の言う「自助」は限界。医療体制の拡充・公助の充実が必要です。

さて、コロナ禍のオリンピックはどうなるのか。感染状況?ワクチン?医療体制?観客?経済?「復興五輪」は政局ではなく、科学的根拠で決断してほしいものです。

後藤新平(奥州市出身)の感染症対策

「危機意識・スピード感・実行力」に現在の政権は学ぶべき

日本の感染症の歴史では、日清戦争の帰還兵23万人に対し、世界史上最大規模の検疫事業を成功させた水沢出身の偉人・後藤新平を忘れてはなりません。



コレラや腸チフスなどの感染防止のため、急遽、隔離療養施設を建設、徹底した消毒・隔離・療養などを不眠不休で行なったということでもあります。後藤は伝染病について「その危険の恐るべきこと弾丸よりも大なるものがある」と述べています。

医学が発達してもウィルスの脅威はこれからも形を変えて続くと言われており、後藤新平の感染症に対する危機意識、スピード感、実行力を現政権も認識する必要があるのではないかと思います。(佐藤ケイ子12月議会一般質問の冒頭発言)

2021年「うし年」=岩手の年

高村光太郎の詩「岩手の人」から

「岩手の人 沈深牛の如し(中略) ついにその成すべきことを成す」



岩手の人は、牛のように寡黙・沈着・思慮深く、結果として成すべきことを成す不言実行の人ということだそうです。良い結果を出す年にしたいものです。

立憲民主党に入党しました。心機一転頑張ります。

社民党の全国連合と岩手県連合は、立憲民主党の呼びかけに応じて立憲に合流する者と社民党残留の両方を認め合うことになり、岩手の地方議員は約7割が立憲に移籍しました。佐藤ケイ子は野党共闘を推進してきた立場から立憲民主党に入党し、「平和」「護憲」「脱原発」等をめざす政策集団「社民フォーラム岩手」の代表代行として活動してまいります。引き続きよろしくお願いたします。

2020 (令和2) 年 12 月 議会

12月3日に一問一答方式で一般質問しました

1. コロナ禍における諸課題への対応について

(1) コロナ禍における母子家庭の状況

コロナ禍での解雇・雇止めは非正規労働者を直撃し、自殺者増加、児童虐待やDVが急増している。困窮している母子家庭の実態把握と追加給付金の早期支給を。



(2) コロナ危機とグリーンリカバリー

「グリーンリカバリー」とは、コロナ危機で打撃を受けた経済・社会の回復において、気候変動の抑制や環境・生態系の保護を重視した政策に大転換するもの。公共施設や各家庭に自然再生エネルギーの導入を強力に進めるべきではないか。

2. 環境施策について

(1) 廃棄物処理計画

岩手県廃棄物処理計画 (H28-H32) は、家庭ごみ有料化・ごみ処理広域化も計画されているが、課題が多い。目標達成見込みと次期計画の見直し点は。

(2) 早池峰地域のユネスコエコパークの登録

早池峰地域はユネスコエコパークのエリアの要件は備えていると見込まれる。県が市町村と連携し、登録実現を。

3. 児童福祉施策について

(1) 児童相談所の充実

本県の2019年度の虐待通報は1,427件で21%増加。児童福祉司の平均ケース数は53件と改善されていない。2022年度に40ケースを目標にしているが職員体制の充実策は。児童相談所の改修計画は。

(2) 児童福祉人材の育成

全国的に児童福祉司等の増員が求められている。専門研修の拡充を。2022年度までに市町村に「子ども家庭総合支援拠点」を設置することになっているが、市町村の人材育成をどう支援するか。

(3) 待機児童対策と保育士の確保

隠れ待機児童は280人で保育士確保が課題である。保育士資格取得支援事業、就職準備金貸付などの事業を行っているが、その成果は。

4. 介護保険制度について

(1) 特養ホーム等の待機

特養ホームへの待機者は1,299人(4月現在)で依然として多い。第7期計画(H30-R2)は、入所定員と実際の入所可能人数の乖離が問題ではないか。

(2) サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)

サ高住が増加し本県では92棟2,139戸の登録。国交省は様々な補助金で拡大方針だが、一部は介護施設化している。サ高住の増加に対する認識を伺う。

(3) 介護事業所の課題

介護サービス事業者の経営問題が露呈している。コロナの感染拡大防止の経費支援を。

5. 働き方改革について

(1) 県職員の働き方改革

欠員、専門職の人員不足、超過勤務などの是正策と会計年度任用職員の処遇改善を。

(2) 教職員の働き方改革

教職員働き方改革プランに取り組んでいるが、時間外勤務が減少していない。業務見直しと対応策は。各種テストのみに更なる見直しを。

(3) 県内の労働環境

コロナ禍で労働相談が増加。長時間勤務の是正は民間企業でも課題。全職種で働き方改革を浸透させ、労働環境の改善を図る必要がある。

6. 森林公園の活用について

(1) 森林公園の環境整備

県内に5カ所の県立森林公園があるが魅力化の課題もある。施設の環境整備の計画は。

(2) 森林セラピー

森と親しみ、県民が元気になれるよう、市民の森等の活用について、各市町村に森林セラピーを普及していくことが必要だ。

7. 社会資本の整備と利活用について

(1) 建設業の持続性確保

地域の建設業は、災害時緊急対応や地域経済を支えているが経営不安、人材不足である。県発注工事で、適正な設計・積算・工期・工事費の支払い時期など県と業界の認識に相違がある。改善方策は。

(2) 釜石港の更なる活用

昨年の釜石港のコンテナ取扱量は過去最大。県産牛肉の輸出や小口混載輸送の状況とコロナの影響はどうか。完成自動車の船便復活への課題と見通しは。

(3) 北上金ヶ崎パシフィックルート

釜石港・大船渡港の活用には、北上・金ヶ崎・江刺中核工業団地からの利便性を向上させなければならない。北上金ヶ崎インターから江刺田瀬インターまでを整備し、三陸地域と北上川流域を結び、東北全体の産業振興を。物流環境を向上させるための課題と展望は。



母子家庭いかに支援

佐藤ケイ子氏 (希望いわて)

「コロナで影響を受ける母子家庭への対応は、野原勝保健福祉部長ひとり親世帯への臨時特別給付金は10月末現在、1方1

54世帯に支給決定した。国の再支給の検討を注視しながら、実態把握を続けて必要な支援につなげる。東北道北上金ヶ崎インターチェンジと釜石道を結ぶ道路整備の展望は。

戸籍弘幸商工労働観光部長 産業集積が進む北上川流域と釜石港、大船渡港を結ぶ物流は今後さらに拡大する。企業ニーズなどを見極めながら、早急整備部と連携して研究していく。



大雪による農林被害 約 34 億円以上 (2/18 現在)

1/6 現地調査 (北上市)、1/13 県議会常任委員会での質疑
1/14 知事要望、1/27 現地調査 (花巻市)

2020年(令2)12月14日からの大雪により、ビニールハウスの倒壊など深刻な被害となった。立憲民主党岩手県連と県議会会派の希望いわては、1月6日～7日に木戸口英司・横沢高徳の両参議院議員と共に県南地域の調査を実施した。1/6の北上市和賀町の調査では、田植え迄に育苗が間に合うか、除雪、部材の確保、作業員の確保、費用の問題など課題山積であり、北上市長からは、県の支援メッセージを早く農家に示してほしいと要望があった。

1/13 県議会農林水産委員会では、現地の要望をもとに質疑し、スピード感を持って支援策を示すよう求めた。また、1/14 は会派で達増知事に緊急要望書を提出。知事は、国に先んじて手を打つ必要があると表明した。

被害農家に再建費用を補助

16億6,000万円の補正予算 (2/12 発表)

被災した農家(法人・団体)には施設などの再建費用のうち、国・県・市町村が最大77%の補助を行う。費用が総額50万円以下など、国の基準以下の農家には、独自に県と市町村で46%程度を補助する。さらに、水稻苗を広域で確保する際の輸送費用を、県・市町村が3分の1ずつ補助することになり、農家負担の軽減をはかることになった。

被害農家は県・市町村・JAに相談を。



1/19 農林水産省ヒアリング (小沢・木戸口・横沢)

2/4 現在、県農林水産部の資料	
被害額合計 (概算)	34億2,558万円 (調査中)
パイプハウスの破損・倒壊	3,591棟
倉庫・畜舎等の破損・倒壊	488棟
農業用機械の破損	247台
その他被害	野菜、花きの倒伏、果樹の倒木等、菌床しいたけ、生乳の廃棄(集荷不能)、原木しいたけ用ハウス倒壊、森林被害



1/6 北上市和賀町の被害調査



1/14 知事要望

新型コロナウイルス対策 令和2年度補正予算 1,642億円 (1月末現在)

岩手県は新型コロナウイルス対応として令和2年度に6回の補正予算を計上し、医療体制の充実、各種施設の感染症対策、社会経済活動の維持に取り組んでいる。しかし、各種の助成制度は手続きが煩雑、制度が難しいという声もあり有効活用が課題でもある。2/16 会派・希望いわては、クリーニング業、飲食業などの方々との意見交換し、倒産廃業を回避するための助成要望を受けた。2/25 に県は飲食、小売、サービス業などに対し1店舗40万円を上限に補助するため31億5,200万円の追加補正を示した。減収事業者は商工会議所等に申請を。

主な部局	予算 (億円)	執行額 (億円)	1月末執行率	主な事業内容
ふるさと振興部	40	29	72.9%	情報テレワーク推進、バス事業者支援、私立学校補助、市町村支援
保健福祉部	390	194	49.9%	感染症予防(PCR検査・入院医療費等)、衛生用品緊急調達、医療機関支援 軽症者宿泊療養、生活福祉資金貸付、慰労金給付(医療・介護・障がい施設従事者)、介護事業所感染対策
商工労働観光部	1,163	891	76.7%	中小企業感染対策資金貸付、家賃支援、感染防止協力金支給、観光宿泊県民割
農林水産部	10	6	62.7%	県産食料学校給食提供、県産品販売促進、肉用牛経営支援、コメ輸出対策事業
教育委員会	32	12	35.7%	学校ICT整備、スクールサポート、修学旅行キャンセル料、学校環境整備
その他7部局	7	3	43.6%	広報、県施設管理費ほか
合計	1,642	1,136	67.6%	(県財政課資料から抽出)